

(5) 菌類

(ア) 菌類概説

菌類はキノコ、カビ類、酵母菌などが知られている。ここではいわゆるキノコに限定して、カビ類、酵母菌、変形菌は除外した。

キノコの子実体を植物に例えると花に相当する。植物の葉、茎、根にあたるキノコの本体は、地中や朽木などに発生する菌糸である。その結果、多くの場合、観察できるのは子実体が発生しているわずかな期間である。

キノコは孢子が発芽して一次菌糸（単核菌糸）になり、出会うと二次菌糸（複核菌糸）になる。やがて原基（菌糸のかたまり）を形成し、そこから子実体（キノコ）を形成して、孢子を造る。この子実体が肉眼で識別できるような仲間を総称してキノコという。

毎年同時期に発生する種もあれば、数年サイクルで発生する種もある。また、天候や環境に左右されて発生しないこともある。発生状況を観察するには長期間にわたって県内すべてを調査する必要がある。またある地点に生息するキノコの種類相について継続調査を行うと、他の動植物に比較して全種類を把握できない傾向がある（吹春 2004）。

日本には約1万6千種以上の菌類があると言われているが、毎年多くの新分類群が記載発表されている。現在までに埼玉産の菌類リストは完成しておらず、県内に何種類の菌類が分布するのか定かではない。

菌類の分類体系については、従来、肉眼や顕微鏡による特徴を重視した形態分類が主流であった。しかし、最近の菌類分類は大きく変化しており、DNA解析を用いた分子系統分類が主流になりつつある。新分類体系は現段階では流動的な状況にあり、定着するまでしばらく時間を要するものとする。今回の各論については、旧来の分類体系に基づいて記述した。

(イ) 参考文献

- 今関六也・本郷次雄（1987） 原色日本新菌類図鑑（Ⅰ） 保育社
今関六也・本郷次雄（1989） 原色日本新菌類図鑑（Ⅱ） 保育社
本郷次雄 監修（1994） きのこと 山溪フィールドガイド 山と溪谷社
幼菌の会編 本郷次雄 監修（2001） きのこと図鑑 家の光協会
冬虫夏草図鑑 清水大典（1997） 家の光協会
北陸のきのこ図鑑 池田良幸（2005） 家の光協会

5001 (キシメジ科)

〔和名〕 オオモミタケ

〔学名〕 *Catathelasma imperiale* (Fr.) Sing.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 本種に適したオオシラビソ、ウラジロモミなどが自然遷移により減少した。食用菌のため採取されていることによる発生環境の悪化が懸念される。

【県内分布状況】 秩父市

【県内生育状況】 外生菌根性で秋にオオシラビソ、ウラジロモミなどの針葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】 秩父で採集された伝聞があるが、食用菌のため正確な情報が不足している。

5002 (キシメジ科)

〔和名〕 モミタケ

〔学名〕 *Catathelasma ventricosum* (Peck) Sing.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 本種に適したモミ林などが自然遷移により減少した。食用菌のため採取されていることによる発生環境の悪化が懸念される。

【県内分布状況】 秩父市雲取山、越生町山地

【県内生育状況】 外生菌根性で初秋にモミなどの針葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】 モミが生育できるような発生地の環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

5003 (キシメジ科)

〔和名〕 オオイチョウタケ

〔学名〕 *Leucopaxillus giganteus* (Sow. : Fr.) Sing.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 腐生菌であるが、林内環境が悪化の傾向にある。また、食用菌のため採取されていることによる適地の環境悪化が懸念される。

【県内分布状況】 秩父市、長瀨町、皆野町、熊谷市

【県内生育状況】 夏～秋、県内の林内、庭園、竹林の腐葉土に子実体を形成し、群生あるいは単生で発生している。

【特記事項】

5004 (キシメジ科)

〔和名〕 シャカシメジ

〔学名〕 *Lyophyllum fumosum* (Pers. : Fr.) P. D. Orton

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内のアカマツ・コナラ混交林の減少と食用菌のため採取されていることによる適地の環境悪化が懸念される。

【県内分布状況】 寄居町釜伏峠、秩父市

【県内生育状況】 秋、コナラなどの広葉樹林やマツとの混交林の地上に発生する菌根菌で子実体を形成する。

【特記事項】 優れた食用菌であるが、近年、発生例が非常に少なく、確認の報告が少ない。

5005 (キシメジ科)

〔和名〕 ホンシメジ

〔学名〕 *Lyophyllum shimeji* (Kawam.) Hongo

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内のアカマツ・コナラ混交林の減少と食用菌のため採取されていることによる適地の環境悪化が懸念される。

【県内分布状況】 ふじみ野市、皆野町、本庄市児玉

【県内生育状況】 秋、アカマツ・コナラ混交林などの地上に束生、あるいは点々と単生する菌根菌で子実体を形成する。過去に発生したと予想される多くの場所は著しく変化している。

【特記事項】 優れた食用菌。近年、発生例が非常に少ない。かつて、ふじみ野市に発生していたが、今回の調査では確認できなかった。県立自然の博物館に標本がある。

5006 (キシメジ科)

〔和名〕 マツタケ

〔学名〕 *Tricholoma matsutake* (S. Ito & Imai) Sing.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

【評価所見】 本種に適した管理の行き届いた松林などが自然遷移により減少したためと、食用菌のため採取され、環境が悪化している。

【県内分布状況】 秩父市十文字峠

【県内生育状況】 秋、時には梅雨期、アカマツなどマツ科の林床に子実体を形成する。

【特記事項】 秩父で採集された伝聞があるが食用菌のため正確な情報が少ない。

5007 (テングタケ科)

〔和名〕 ヒメベニテングタケ

〔学名〕 *Amanita rubrovolvata* Imai

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 コナラ、ブナなどの広葉樹林が整備されず放置されているため、生育に適した良好な広葉樹林が減少傾向にある。

【県内分布状況】 秩父市大滝雲取山、小鹿野町両神山、飯能市

【県内生育状況】 夏から秋、ブナ・ミズナラ林、シイ林、カシ林の地上に子実体を形成し、単生または群生する。

【特記事項】 飯能市赤根峠採集の記録があるが、その場所は今は住宅造成地になっているので絶滅したと思われる。秩父市雲取山と小鹿野町両神山で採集された標本が県立自然の博物館にある。

5008 (テングタケ科)

〔和名〕 マツカサモドキ

〔学名〕 *Amanita strobiliformis* (Vitt.) Bertillon

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 針葉樹林の林内環境が悪化しているので発生例が少ない。

【県内分布状況】 秩父郡横瀬町、滑川町

【県内生育状況】 マツの樹下で砂地に子実体を形成している。

【特記事項】 かつて国営武蔵丘陵森林公園に発生していた。今回の調査では確認できなかったが、発生している可能性がある。

5009 (ウラベニガサ科)

〔和名〕 ヒョウモンウラベニガサ

〔学名〕 *Pluteus pantherinus* Courtecuisse et Uchida

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 発生例が少なく、発生環境が減少傾向にある。

【県内分布状況】 長瀬町宝登山、滑川町

【県内生育状況】 初夏～秋、広葉樹の腐朽材上に子実体を形成する。

【特記事項】 かなり南限に近い種と考えられ、関東以北が分布域と考えられる。今回の調査では国営武蔵丘陵森林公園で確認した。

5010 (モエギタケ科)

〔和名〕 アシボソクリタケ

〔学名〕 *Naematoloma dispersum* H. Karst.

埼玉カテゴリ 情報不足 (DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 針葉樹林の林内環境が悪化しているため発生例が少なく、適地の環境悪化が懸念される。

【県内分布状況】 飯能市

【県内生育状況】 針葉樹林内の地上や腐朽した切株などに子実体を形成する。

【特記事項】

5011 (フウセンタケ科)

〔和名〕 ムレオオフウセンタケ

〔学名〕 *Cortinarius praestans* (Cord.) Sacc.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 広葉樹林内の環境が悪化し、土壌菌類層が変化している。また、優れた食用菌として採取され、乱獲によって生育環境が悪化している。

【県内分布状況】 秩父市、寄居町、小鹿野町、越生町

【県内生育状況】 秋、広葉樹を中心とした林の地上に子実体を形成し、多数群生または束生している。

【特記事項】 親子でも発生地は秘密とのことだが、今回の調査で越生町で確認された。

5012 (イッポンシメジ科)

〔和名〕 イッポンシメジ

〔学名〕 *Rhodophyllus sinuatus* (Bull. : Fr.) Sing.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 有毒菌。針葉樹と広葉樹林の雑木林内が整備されず放置されているため、発生環境が悪化の傾向にある。

【県内分布状況】 秩父市大滝、滑川町

【県内生育状況】 夏から秋、コナラ・クヌギ林、シイ林、カシ林の地上に子実体を形成し、単生または群生する。

【特記事項】 この子実体は食用菌のウラベニホテイシメジとよく似ているため食中毒を起こす。

5013 (ヒダハタケ科)

〔和名〕 ニワタケ

〔学名〕 *Paxillus atrotomentosus* (Batsch : Fr.) Fr.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 発生例が少なく、発生環境が減少傾向にある。

【県内分布状況】 さいたま市、小川町、越生町

【県内生育状況】 マツ林等の針葉樹林内環境の悪化と倒木の撤去などにより、子実体の形成が減少傾向にある。

【特記事項】 針葉樹と広葉樹林の混交林内で松の根際に発生する。

5014 (オニイグチ科)

〔和名〕 ヤシャイグチ

〔学名〕 *Austroboletus fusisporus* (Kawam. ex Imazeki & Hongo) Wolfe

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 発生例が少なく、発生環境が減少傾向にある。

【県内分布状況】 秩父市

【県内生育状況】 シイ、カシ林の地上に発生し外生菌根性である。発生に適した良好な広葉樹林は減少傾向にある。

【特記事項】 適地が土地造成などにより減少傾向にある。

5015 (オニイグチ科)

〔和名〕 アシナガイグチ

〔学名〕 *Boletellus elatus* Nagasawa

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 発生例が少なく、発生環境が減少傾向にある。

【県内分布状況】 越生町、小川町

【県内生育状況】 シイ、カシ林の地上に子実体を形成し、外生菌根性である。発生に適した良好な広葉樹林は減少傾向にある。

【特記事項】 適地が土地造成などにより減少傾向にあると考えられる。越生町の記録があるが、今回の調査では確認されていない。現存する可能性がある。

5016 (オニイグチ科)

〔和名〕 **キクバナイグチ**〔学名〕 *Boletellus emodensis* (Berk.) Sing.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 発生例が少なく、発生に適した良好な広葉樹林が減少傾向にあるので、発生環境が限定される。

【県内分布状況】 越生町、毛呂山町、寄居町

【県内生育状況】 外生菌根性であり、松、広葉樹林の地上または生え際に子実体を形成する。

【特記事項】 適地が土地造成などにより減少傾向にあると考えられる。特に飯能市、赤根峠付近は土地造成のため絶滅したと思われる。

5017 (オニイグチ科)

〔和名〕 **オオキノボリイグチ**〔学名〕 *Boletellus mirabilis* (Murr.) Sing.

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 オオシラビソ、シラビソ、コメツガなどの針葉樹林が自然遷移により減少傾向にある。生育地が限定されているため情報が少ない。

【県内分布状況】 秩父市十文字峠

【県内生育状況】 夏～秋、亜高山帯の針葉樹が著しく腐朽した倒木や切株上、あるいはその付近の腐植上に子実体を形成し、単生、希に少数束生する。

【特記事項】 今回の調査で十文字峠付近にあることが確認された。

5018 (オニイグチ科)

〔和名〕 **トゲミノヒメイグチ**〔学名〕 *Boletellus shichianus* (Teng & Ling) Teng

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 アカマツ・コナラ林内の環境が悪化傾向にある。発生環境が限定しているため、情報が少ない。

【県内分布状況】 上尾市

【県内生育状況】 外生菌根性で夏から秋にかけて、アカマツ・コナラなどの雑木林の地上に子実体を形成し単生する。

【特記事項】 上尾市の記録があるが、その後調査では確認されていない。現存する可能性がある。

5019 (イグチ科)

〔和名〕 **ウツロベニハナイグチ**〔学名〕 *Boletinus asiaticus* Sing.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 カラマツ林内が放置され発生環境が悪化傾向にあり、良好な生育地が減少しているため子実体の確認例が少ない。

【県内分布状況】 秩父市十文字峠

【県内生育状況】 外生菌根性で夏～秋、カラマツ林内の地上に子実体を形成する。

【特記事項】

5020 (イグチ科)

〔和名〕 **オオダイアシベニイグチ**〔学名〕 *Boletus odaiensis* Hongo

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 オオシラビソ、シラビソ、コメツガなどの針葉樹林が自然遷移のため減少傾向にある。また発生例が少なく、生育地が限定される。

【県内分布状況】 秩父市十文字峠

【県内生育状況】 夏から秋にかけて亜高山帯から山地帯の針葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】 発生情報が少ない。今回の調査では調査時期が遅く確認できなかったが、現存する可能性がある。

5021 (イグチ科)

〔和名〕 アイゾメイグチ

〔学名〕 *Gyroporus cyanesceus* (Bull. : Fr.) Quel. var. *cyanesceus*

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 雑木林が整備されず放置されているため、環境が悪化傾向にある。発生例が少なく、発生環境が限定される傾向にある。

【県内分布状況】 所沢市

【県内生育状況】 夏～秋、ブナ科を交えた広葉樹あるいは針葉樹林の地上に子実体を形成し、単生あるいは群生している。

【特記事項】 かつて所沢市内で採集されたが、今回の調査で確認できなかった。しかし現存する可能性はある。所沢市で採集された標本が県立自然の博物館にある。

5022 (イグチ科)

〔和名〕 クリイロイグチモドキ

〔学名〕 *Gyroporus longicystidiatus* Nagasawa & Hongo

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 広葉樹林が整備されず放置されているため、林内環境が悪化傾向にあり、発生環境が減少傾向にある。

【県内分布状況】 鶴ヶ島市、桶川市、毛呂山町、小川町

【県内生育状況】 夏～秋、シイ・カシ・コナラ林の地上に子実体を形成している。

【特記事項】 小川町、長瀨町に記録がある。

5023 (イグチ科)

〔和名〕 ベニハナイグチ

〔学名〕 *Suillus pictus* (Peck) A. H. Smith & Thiers

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 ゴヨウマツの林内環境が悪化傾向にあり、発生例が少なく、発生環境が減少傾向にある。

【県内分布状況】 秩父市大滝、三国峠、秩父市十文字峠

【県内生育状況】 夏～秋、ゴヨウマツの林床に子実体を形成する。

【特記事項】 十文字で採集された標本が県立自然の博物館にある。

5024 (イグチ科)

〔和名〕 ゴヨウイグチ

〔学名〕 *Suillus placidus* (Bonorden) Sing.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 ゴヨウマツの林内環境が悪化傾向にあり、発生例が少なく、発生環境が減少傾向にある。

【県内分布状況】 長瀨町

【県内生育状況】 夏～秋、ゴヨウマツの林床に子実体を形成する。

【特記事項】

5025 (イグチ科)

〔和名〕 ニガイグチ

〔学名〕 *Tylopilus felleus* (Bull. : Fr.) Karst.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 広葉樹林や針葉樹林の林内環境が悪化傾向にあり、発生例が少なく、発生環境が減少傾向にある。

【県内分布状況】 長瀨町、秩父市十文字峠

【県内生育状況】 夏から秋、ブナ科の広葉樹林や針葉樹林内とその地上に子実体を形成し、群生～単生する。

【特記事項】 長瀨町で採集された標本が県立自然の博物館にある。

5026 (イグチ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕モエギアミアシイグチ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Tylopilus nigerrimus* (Heim) Hongo & Endo

【評価所見】 広葉樹林が整備されず放置されているため、林内環境が悪化している。発生例が少なく、発生環境が減少傾向にある。

【県内分布状況】 鳩山町、小川町、寄居町

【県内生育状況】 外生菌根性で夏から秋にかけてブナ科の林床に子実体を形成し、単生～群生している。

【特記事項】 今回の調査で鳩山町、寄居町で確認した。なお、かつて飯能市赤根峠で採集しているが、今回の調査では宅地造成中のため確認できなかった。

5027 (イグチ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕ブドウニガイグチ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Tylopilus vinosobrunneus* Hongo

【評価所見】 広葉樹林が整備されず放置されているため、林内環境が悪化している。発生例が少なく、発生環境が減少傾向にある。

【県内分布状況】 北本市、滑川町、小川町

【県内生育状況】 外生菌根性で夏から秋にかけてブナ科林内の地上に子実体を形成している。

【特記事項】 適地が土地造成などにより減少傾向にあると考えられる。

5028 (ベニタケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕ルリハツタケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Lactarius indigo* (Schw.) Fr.

【評価所見】 アカマツ・コナラの混交林に発生するが、マツクイムシによるマツ枯れのため発生例が少なく、生育環境が悪化している。

【県内分布状況】 皆野町美の山、越生町、滑川町、東京大学秩父演習林

【県内生育状況】 外生菌根性で夏から秋、マツ、コナラの混交林内に子実体を形成する。

【特記事項】 適地が土地造成などにより減少傾向にあると考えられるから、発生地の環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

5029 (シロソウメンタケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕ベニセンコウタケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Clavaria rosea* Dalm. : Fr.

【評価所見】 林間草地あるいは芝生地が宅地造成や踏荒らしなどにより、土壌条件が攪乱されている。

【県内分布状況】 埼玉県立小川げんきプラザ

【県内生育状況】 秋に林間草地あるいは芝生の地上に、子実体を形成し、単生あるいは数個束生状に発生する。

【特記事項】 蓮田市、小川町で採集の標本が自然の博物館にある。

5030 (イボタケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕クロカワ

全国カテゴリ 情報不足(DD)

〔学名〕*Boletopsis leucomelas* (Pers. : Fr.) Fayod

【評価所見】 トウヒ林、モミ林などの林内環境の悪化及び優れた食用菌のため採取され、発生環境の悪化が懸念されている。発生の情報も少ない。

【県内分布状況】 ふじみ野市

【県内生育状況】 秋、マツ・モミ林の地上に子実体を形成し、散生あるいは群生する。

【特記事項】 ふじみ野市付近では、今回の調査で確認できなかった。

5031 (イボタケ科)

〔和名〕 **コウタケ**〔学名〕 *Sarcodon aspratus* (Berk.) S. Ito

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 広葉樹林が整備されず放置されているため、林内環境が悪化している。また、優れた食用菌のため採取され、発生環境の悪化が懸念される。

【県内分布状況】 皆野町

【県内生育状況】 日本特産種で秋、広葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】 県内の亜高山帯、山地帯、低山帯に子実体を形成している。

5032 (ニンギョウタケモドキ科)

〔和名〕 **アオロウジ**〔学名〕 *Albatrellus caeruleoporus* (Peck) Pouzar

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 マツ・モミ林などの針葉樹林の地上に発生するが、マツクイムシの被害によるマツ枯れのため発生例が少なく、生育環境が悪化している。

【県内分布状況】 滑川町、秩父市

【県内生育状況】 秋～晩秋、マツなどの針葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】 滑川町付近では、今回の調査で確認できなかったが、現存の可能性はある。

5033 (ニンギョウタケモドキ科)

〔和名〕 **ニンギョウタケモドキ**〔学名〕 *Albatrellus ovinus* (Schaeff. : Fr.) Murrill

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【評価所見】 針葉樹林の林内環境の悪化及び食用菌のため採取されるなど、環境の悪化が懸念される。また、適地の情報が少ない。

【県内分布状況】 今回の調査では、ふじみ野市の発生が確認されなかったが、現存の可能性はある。

【県内生育状況】 秋、針葉樹林（マツ、モミ、トウヒ）の地上に子実体を形成する。

【特記事項】

5034 (タコウキン科)

〔和名〕 **ツガマイタケ**〔学名〕 *Osteina obducta* (Berk.) Donk

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

全国カテゴリー 情報不足 (DD)

【評価所見】 コメツガやシラビソなどの針葉樹林内が整備されずに放置され、環境が悪化している。発生例が少なく、情報が不足している。

【県内分布状況】 秩父市十文字峠

【県内生育状況】 夏～秋、コメツガ、カラマツなどの針葉樹の枯木上に発生する褐色腐朽菌である。

【特記事項】 発生情報が不足している。マイタケの名がつくがマイタケ型ではなく、やや厚いへら形の傘を数枚つける。

5035 (タバコウロコタケ科)

〔和名〕 **ラッコタケ**〔学名〕 *Inotus sciurinus* Imazeki

埼玉カテゴリー 情報不足 (DD)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内ブナ林が自然遷移により減少傾向にある。発生例が極めて少なく、確実な情報が不足している。

【県内分布状況】 秩父市

【県内生育状況】 晩秋、ブナ等の広葉樹枯木上に発生する白色腐朽菌である。

【特記事項】 旧植物誌に秩父の記録があるが、いずれの生育地でも現在の状況はわからない。

5036 (コウボウフデ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕コウボウフデ

全国カテゴリ 情報不足(DD)

〔学名〕 *Pseudotulostoma japonicum* (Kawam.) Asai, H. Sato & Nara

【評価所見】 コナラなどの広葉樹林が減少傾向にある。公園造成などにより、土壌条件が破壊されている。また、確実な情報が不足している。

【県内分布状況】 長瀨町長瀨

【県内生育状況】 秋、コナラなどの広葉樹林の地上に子実体を形成し、単生または群生している。発生している面積も狭い。

【特記事項】

5037 (アカカゴタケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕カゴタケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Ileodictyon gracile* Berk.

【評価所見】 発生例が少なく、発生環境が減少傾向にある。

【県内分布状況】 鳩山町、小鹿野町みどりの村、皆野町、狭山丘陵、越生町

【県内生育状況】 腐生性で梅雨～晩秋、広葉樹林または針葉樹林の地上に子実体を形成する。発生地に適した立地条件が限定されている。

【特記事項】 発生時期は6～8月といわれているが、冬季の2月まで発生する。

5038 (アカカゴタケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕ツノツマミタケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Lysurus mokusin* (L.: Pers.) Fr. f. *sinensis* (Lloyd) Kobayashi

【評価所見】 雑木林の放置などにより、林内環境が悪化したために土壌菌類相が変化している。

【県内分布状況】 さいたま市

【県内生育状況】 夏、庭園、路傍、林内の地上に子実体を形成して群生または単生する。胞子は悪臭に引き付けられた蠅などによって散布されると考えられる。

【特記事項】 さいたま市付近ではウッドチップの散布により子実体の発生が確認されている。

5039 (スッポントケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕キヌガサタケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Dictyophora indusiata* (Vent.: Pers.) Fisch.

【評価所見】 竹林が整備されず放置されているため発生環境が変化し、適地が減少傾向にある。

【県内分布状況】 秩父市、横瀬町、嵐山町、越生町

【県内生育状況】 梅雨期と夏、竹林の地上に子実体を形成し、群生または散生する。胞子の悪臭に引き付けられた蠅などによって散布されると考えられる。

【特記事項】 埼玉県西部では竹チップの散布により本種の発生が確認されている。

5040 (スッポントケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕キイロスッポントケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Phallus costatus* (Penzig) Lloyd

【評価所見】 広葉樹林内の環境が悪化している。他の菌が分解した材を分解するため発生が少ない。

【県内分布状況】 秩父市大滝、川又から柳小屋

【県内生育状況】 梅雨期と夏、林内の腐朽材に子実体を形成する。この子実体の先端の暗緑色表面が臭い胞子液となり昆虫を呼びよせる。

【特記事項】 県内では山地で夏に発生し、熱帯性であると言われている。

5041 (ジャガイモタケ科)

〔和名〕 **ジャガイモタケ**〔学名〕 *Octavianina columellifera* Kobayashi

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 平野部のモミ等が減少傾向にあり、発生例が少ない。子実体が半地中～地上に形成するため、土地造成等により記録地が失われると思われる。

【県内分布状況】 川越市、入間市、秩父市

【県内生育状況】 秋から冬にかけてモミ、ヒマラヤスギなどの樹下に子実体を半地中～地上に形成する。

【特記事項】 地下生菌として半地中から地上に子実体を形成するため、検出が難しい。今回の調査ではふじみ野市の発生が確認できなかったが、川越で発生が確認された。

5042 (ヒメキクラゲ科)

〔和名〕 **ムカシオオミダレタケ**〔学名〕 *Protodaedalea hispida* Imazeki

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内のブナ林等の落葉樹林が自然遷移により減少傾向にあり、発生例が少なく情報も少ない。

【県内分布状況】 秩父市大滝、東京大学秩父演習林

【県内生育状況】 腐生性でブナまたはイタヤカエデの枯れ木に子実体を形成する。

【特記事項】 かつて環境省のⅠA類に指定された結果、全国各地で確認がなされ、比較的分布していることが明らかになった。

5043 (ズキンタケ科)

〔和名〕 **クチキトサカタケ**〔学名〕 *Ascoclavulina sakaii* Otani

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー 情報不足(DD)

【評価所見】 県内のブナ林が自然遷移により減少傾向にあり、極めて発生例が少ない。また、情報が不足している。

【県内分布状況】 秩父市

【県内生育状況】 腐生性でブナ林の倒木上のみの子実体を形成する。

【特記事項】 環境省の絶滅危惧種 DD に指定されているので、全国各地で確認がなされている。

5044 (ベニチャワンタケ科)

〔和名〕 **ミミブサタケ**〔学名〕 *Wynnea gigantea* Berk. et Curt.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 広葉樹の自然林が減少傾向にある。胞子の生存条件など、種々の減少要因が考えられる。

【県内分布状況】 秩父市大滝、川又から柳小屋、越生町

【県内生育状況】 夏～秋、林内の地上に発生し、子実体は土に埋まった塊状の菌核より生じた10～20個のうさぎの耳房状の子囊盤ができる。

【特記事項】 各地に採集情報がある。条件などは不明であるが、ナラタケの菌糸と密接な関係がある。かつて川越、越生で確認されていたが、今回の調査では確認できなかった。

5045 (セイヨウシヨウロタケ科)

〔和名〕 **クルミタケ**〔学名〕 *Hydnotrya tulasnei* (Berk.) Berk. & Broome

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 子実体が地中性かあるいは半地中性であるため、記録地が土地造成により失われると思われる。

【県内分布状況】 入間市、北本市、秩父市

【県内生育状況】 地下生菌で春から夏、落葉樹林下の土壌中に子実体を形成し、外生菌根である。

【特記事項】 秩父市十字峠(清水)があるが、今回の調査では確認できなかった。

5046 (バツカクキン科)

〔和名〕 ミドリクチキムシタケ

〔学名〕 *Cordyceps atrovirens* Kobayashi et Shimizu

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

- 【評価所見】 県内の発生例が極めて少なく、発生環境が減少傾向にあり、情報が不足している。
- 【県内分布状況】 小鹿野町両神山の薄川に発生していた。
- 【県内生育状況】 発生時期は8～9月で極めてまれである。鞘翅類のゴミムシダマシ科の幼虫に生じ、ブナ、サワグルミ、サワシバの朽木生型の冬虫夏草である。
- 【特記事項】 両神山の記録(清水)があるが、以後、発生が確認されていない。

5047 (バツカクキン科)

〔和名〕 フトクビクチキムシタケ

〔学名〕 *Cordyceps facis* Kobayasi et Shimizu

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

- 【評価所見】 県内の発生例が極めて少なく、発生環境が減少傾向にある。サワグルミ、クマシデ、カツラの林内環境が悪化している。
- 【県内分布状況】 小鹿野町両神山地の薄川に発生
- 【県内生育状況】 発生時期は7～8月。サワグルミ、クマシデ、カツラの倒木上のゴミムシダマシ科の幼虫に発生する。
- 【特記事項】 小鹿野町両神山地の記録(清水)があるが、以後、発生が確認されていない。

5048 (バツカクキン科)

〔和名〕 クサギムシタケ

〔学名〕 *Cordyceps hepialidicola* Kobayashi et Shimizu

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

- 【評価所見】 県内の発生例が極めて少なく、発生環境が減少傾向にある。また、自然林の減少により胞子の生存条件の悪化など、種々の減少複合要因が考えられる。
- 【県内分布状況】 秩父地方の山地で広葉樹周辺のクサギに発生する。
- 【県内生育状況】 発生時期は7～8月。鱗翅類のコウモリガ科の幼虫に生じる冬虫夏草で、子実体はクサギの木の根元に幼虫の食孔部から子実体を形成する。
- 【特記事項】 1979年に小鹿野町両神山地の記録(清水)があるが、以後、発生が確認されていない。

5049 (バツカクキン科)

〔和名〕 コゴメカマキリムシタケ

〔学名〕 *Cordyceps mantidaecola* Kobayashi et Shimizu

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

- 【評価所見】 県内の発生例が極めて少なく、発生環境が減少傾向にある。また、自然林の減少による胞子の生存条件の悪化など、種々の減少要因が考えられる。
- 【県内分布状況】 小鹿野町両神山
- 【県内生育状況】 発生時期は7～8月、極めて希に発生し、直翅類のカマキリムシ科の卵のうに生じる地生型か地上生の冬虫夏草。
- 【特記事項】 小鹿野町両神山の記録(清水)があるが、以後確認されていない。

5050 (バツカクキン科)

〔和名〕 チチブクチキムシタケ

〔学名〕 *Cordyceps nanatakiensis* Kobayashi et Shimizu

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ 情報不足(DD)

- 【評価所見】 極めて発生例が少なく、発生環境が減少傾向にある。また、自然林の減少による胞子の生存条件の悪化など、種々の減少要因が考えられる。
- 【県内分布状況】 小鹿野町両神山
- 【県内生育状況】 発生時期は7～8月、極めて希に発生する。鞘翅類のゴミムシダマシ科の幼虫に生じる朽木生の冬虫夏草である。
- 【特記事項】 秩父両神山の記録(清水)があるが、以後発生が確認されていない。

5051 (バツカクキン科)

〔和名〕 シロヒメサナギタケ

〔学名〕 *Cordyceps pallidiolivacea* Kobayashi et Shimizu

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー 情報不足(DD)

【評価所見】 極めて発生例が少なく、発生環境が減少傾向にある。また、自然林の減少傾向による胞子の生存条件の悪化など、種々の減少要因が考えられる。

【県内分布状況】 小鹿野町両神山

【県内生育状況】 発生時期は7～8月、極めて希に発生する。鱗翅類のミノガ科の蛹に生じる。地生型または

【特記事項】 腐朽の進んだ倒木上に発生する冬虫夏草である。

小鹿野町両神山の記録(清水)があるが、以後発生が確認されていない。

5052 (バツカクキン科)

〔和名〕 スズキセミタケ

〔学名〕 *Cordyceps ryogamimontana* Kobayashi

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー 絶滅危惧I類(CE)

【評価所見】 県内発生例が少なく、発生環境が減少傾向にある。また、自然林の減少による胞子の生存条件の悪化など、種々の減少要因が考えられる。

【県内分布状況】 小鹿野町両神山

【県内生育状況】 発生時期は7～8月、極めて希に発生し、エゾゼミとミンミンゼミの成虫に寄生する。

【特記事項】 セミタケとしては世界で唯一である。成虫に寄生するタイプ。非常にまれ。両神山の記録(清水)があるが、以後発生が確認されていない。

5053 (スチルペラ科)

〔和名〕 クモタケ

〔学名〕 *Isaria atypicola* Yasuda

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内の発生が比較的希で、崖地などの良好な生育地が少なくなっていることなど、生息環境の破壊により寄生主の生活域が減少している。

【県内分布状況】 滑川町、飯能市、秩父市

【県内生育状況】 6～9月、キシノウエトタゲモに寄生し、巣穴から子実体が地上に現れる。

【特記事項】